キズナエピソード

百波瀬 ここあ　2話

//とびお自室

//ヴィジュアルノベル形式開始

//公園

隣町での買い物の一件以来、俺とここあはとても仲良くなった。

というより、ここあの弟たちととてつもなく仲良くなってしまった。

今日も俺は、ここあが家事をしている間、

弟たちが公園で遊ぶのを見守っていた。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

［和哉＆達哉］

「とびおー。なにしてんだよー。早く来いよー」

［とびお］

……見守っていたかったのだが、そんな願いも叶わず、

俺はあいつらに連れまわされていた。

［とびお］

「バ、バカヤロー。

お前らは2人で俺1人を相手にしてるけどな、

俺は1人でお前ら2人を相手にしてるんだよ。休ませろ」

［和哉」

「とびおの体力なしー」

「達哉］

「根性なしー」

［和哉＆達哉］

「甲斐性なしー」

［とびお］

「なっ……お前らー！

もう容赦しないからな、そこで待ってやがれ！」

［和哉＆達哉］

「わー、とびオニが来るー！　逃げろー！」

［とびお］

そんな感じで、空が夕焼け色になるまで

俺は弟たちの遊びに付き合っていった。

//公園・夕方

［ここあ］

「和哉ー、達哉ー。迎えに来たよー。

とびおっちもお疲れー」

［和哉＆達哉］

「やーだー。もうちょっと遊ぶー！」

［とびお］

「ようやく救世主が来てくれた……」

［とびお］

俺がよろよろと近づいていくと、

ここあは精いっぱい腕を伸ばして俺の頭を撫でてきた。

［ここあ］

「いやぁ、ありがとね。

とびおっちがいてくれると

他の家事がスムーズに終わって、助かるわぁ」

［とびお］

「そっか、いつもならここあが

アイツらの面倒も見てるんだっけ。

……ここあはえらいな」

［ここあ］

「別にえらくないよー。お母さん死んじゃってるし、

お父さんは頑張って仕事してるからね。

ここあがやらなきゃ、誰がやる、だよ」

［とびお］

「え、あ、ごめん。

そうだったんだ、俺知らなくて……」

［ここあ］

「いやいや、重く考えなくてもいいから。

人にはそれぞれの事情があるのは当たり前。

大事なのは、それをどう受け取るかだと思うのよ」

［ここあ］

「こういう普通の日常だってさ、

楽しもうと思っていれば楽しめるもんなんだから。

前向きに考えないと、人生損だよ、損」

［とびお］

「……なんか、すごいな。

ここあって将来、世に名を残しそうな気がする」

［ここあ］

「にゃはは。そんな大それたことしたくないな。

デザイナーになってカワイイ服とかをたくさん創れれば、

いいな～って思うけど！」

［とびお］

「へー、デザイナーが夢なのか。いいじゃん」

［とびお］

俺が素直に褒めると、

ここあはなぜかバツの悪そうな顔をした。

［ここあ］

「あー、とびおっち。ごめん。これはオフレコで。

っていうか、ここあはデザイナーは目指してないので」

［とびお］

「え、なんで？　なんかわけあり？」

［ここあ］

「いや、ほら。デザイナーになるためには、

そっち系の専門学校に行かなきゃいけないわけよ。

でも、ここあのとこはお金がなしなしだから」

［とびお］

苦笑交じりにそう言われたら、何も言えなかった。

感性の強いここあなら、

すごいデザイナーに慣れそうなのにもったいない。

［ここあ］

「だから、私の将来の夢はお嫁さん、かなぁ。

弟たちの面倒見てるとね、

こういう普通なのが幸せなのかなぁって、思うんだ」

［とびお］

「あぁ、その感覚はなんかわかるかもな」

［ここあ］

「ふふっ。こうしてるとなんだか、私達

この歳で子持ちの夫婦みたいだね」

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式終了

とびきりの笑顔を向けられ、俺は赤面してしまった。

俺とここあが、夫婦、か。

恋人をすっ飛ばして夫婦だなんて、なんだか照れてしまう。

「おやおや、うぶですなぁ」

ここあがにひひと意地悪そうに笑う。

「おい！　からかうなよ」

//次ページ

俺はぶっきらぼうに誤魔化そうとしたのだが、

ここあは俺の腕を握るとおもしろそうに見つめてきたのだった。

「なに？　ここあと夫婦ってのはいやだった？

　……ここあはそうでもないよ」

//ヴィジュアルノベル形式終了

//2話END